

令和4年度通常総会会長挨拶（令和4年5月23日開催）



会長
（藤枝市立総合病院事業管理者）
毛利 博

令和4年度通常総会が本日開催されることになり、大変うれしく思います。御来賓の県健康福祉部長八木様、県医師会長紀平先生には御多忙のところ御臨席いただき、感謝申し上げます。

新型コロナウイルスについては、ゴールデンウィーク明け後にどうなるか注視していましたが、幸い新規感染者も少なく、このまま収束していくような印象を受けています。

東京都でも、静岡で実施している「元気旅」のようなパッケージを行うことをニュースで聞きました。静岡県においても新規感染者が1,000人を切ってきています。1,000人はすごい数ですが、元々の何千人というレベルから見ると少なくなった印象です。しかし、まだ油断はできないので、病院協会として会員病院の御協力を得ながら、静岡県民の健康を守るためしっかりと邁進していきたいと思っている次第であります。

また、働き方改革がいよいよ本格化しますが、労働局の対応も、まだはっきりと見えないところがあり、特に、周産期医療におかれては、開業されている先生は当直をどのようにするのか、紀平会長と県医師会も御苦労されていると思います。そのことで国の方向が変わってくると、病院の働き方改革も変わってくるかもしれませんが、これから本格化することを理解し進めていかなければいけないと感じています。

病院におかれては、その辺りを踏まえながら対処して、あまり大きな支障がなく上手く乗り切っていただければよいが、一診療科の医師の数がかなり足りなくなってくるのが十分に予想されるので、そのときには、プランA、プランBなどいろいろなオプションを考えながら対応していただきたいと思います。

これから20年30年先には人口減少が急速に起こります。地域医療構想について、国もコロナで少しトーンダウンしていますが、これは確実に進んでいくと思います。医療圏ごとの急性期病床は、欧米に比較して圧倒的に多いことは事実であるので、そこを踏まえながら各地域で病床をどのように適正に配分するか、これから議論が出てくるのではないかと思います。

本日は、議案審議に続き、記念講演もお聞きいただき議論いただければと思います。